

2023年3月期 決算説明資料 トレーダーズホールディングス株式会社

証券コード：8704
2023年5月24日



金融を、もっと面白く。

- 01 2023年3月期 業績ハイライト**
- 02 中期経営計画の目標数値に関して**
- 03 2024年3月期決算 業績予想**
- 04 業績予想達成に向けた2024年3月期の施策**
- 05 株主還元**
- 06 Appendix**

金融を、もっと面白く。



MISSION

ミッション

新たな価値を創造し続ける

Create the New Values

VISION

ビジョン

お客様から最も信頼される“FinTech”グループとなり、
だれもが未来に投資できる社会を実現させる

金融を、もっと面白く。

traders

VALUE

バリュー

トレーダーズ
ホールディングス

関わるすべての“人”を大切にしながら、
コンプライアンスとダイバーシティ（多様性）を尊重した経営で、
変革にチャレンジし続ける

トレーダーズ証券

金融リテラシーの向上に貢献しながら、
お客様と社会が求める新たなサービスの提供にチャレンジし続ける

FleGrowth

競争力のあるサービスを提供しながら、スピード感をもって
安定的かつ革新的なシステム開発にチャレンジし続ける

金融を、もっと面白く。



2023年3月期 業績ハイライト

2023年3月期 エグゼクティブサマリー

金融を、もっと面白く。



預り資産を着実に伸ばしていきながら急激な相場変動によるFX取引の需要増加を確実に捉え、
前期比で**大幅な増収増益を実現**

営業利益に関しては前期比で約1.6倍 営業利益率は40%超

	2022年3月期 (累計)	2023年3月期 (累計)	前期比
営業収益	7,082 百万円	9,194 百万円	+29.8%
営業利益	2,372 百万円	3,742 百万円	+57.8%

2023年3月期 トピックス

金融を、もっと面白く。



営業利益率

40.7%

前期比

+7.2%

- ✓ グループ内でのシステム開発体制によりシステムコストが大幅に削減でき、高営業利益率の維持が可能に
- ✓ 証券セクターに属する上場企業では最も高い営業利益率（自社調べ）

預り資産残高

828 億円（2023年4月末時点）

- ✓ 新規顧客を中心に入金が増加したものの、急激な相場変動の影響で顧客の取引損失の発生が膨らみ、預り資産残高は一時減少
- ✓ 預り資産残高は一時減少しましたが、引き続き新規顧客獲得の流れは順調となり2023年3月末では過去最高を更新

取引関係費

22 億円

前年同期比

+3.7 億円

- ✓ 預り資産増加達成に向け新規顧客獲得に注力
ブランディング力の向上による認知度アップを目指し、TVCMやその他プロモーション等の施策実施

キャッシュフロー

営業CF +13.2 億円 投資CF ▲7.2 億円 財務CF ▲5.9 億円

- ✓ 「本業で稼ぎ、魅力的なオフィス環境構築に向けた本社移転という投資を行い、株主還元を行う」体質へ変化

2023年3月期 連結業績比較

金融を、もっと面白く。



営業利益、経常利益においては前期比で60%近い増加 当期純利益においても50%近い増加
2022年11月、2023年2月と2度の上方修正を行い、通期業績結果は2月の上方修正をさらに上回る

(単位：百万円)	2022年3月期	2023年3月期	前期比
営業収益	7,082 (100%)	9,194 (100%)	+29.8%
営業利益	2,372 (33.5%)	3,742 (40.7%)	+57.8%
経常利益	2,360 (33.3%)	3,730 (40.6%)	+58.1%
親会社に帰属する 当期純利益	2,189 (30.9%)	3,217 (35.0%)	+47.0%

売上原価販管費の四半期推移

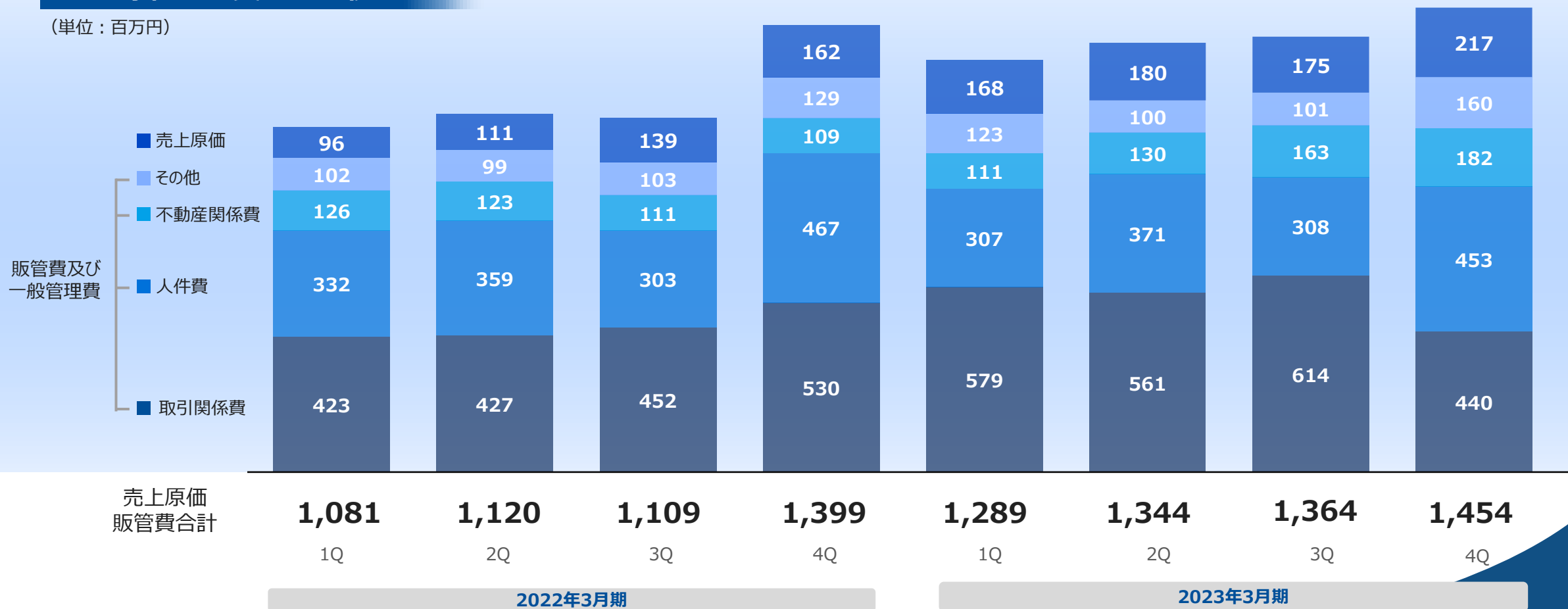
金融を、もっと面白く。



4Qの人件費は賞与引当金の増加により他の四半期に比べて増加傾向に
不動産関係費は恵比寿ガーデンプレイスへの移転費用を含む

売上原価販管費合計推移

(単位：百万円)



2023年3月期 市況概況①

金融を、もっと面白く。



USDJPY (日足チャート)



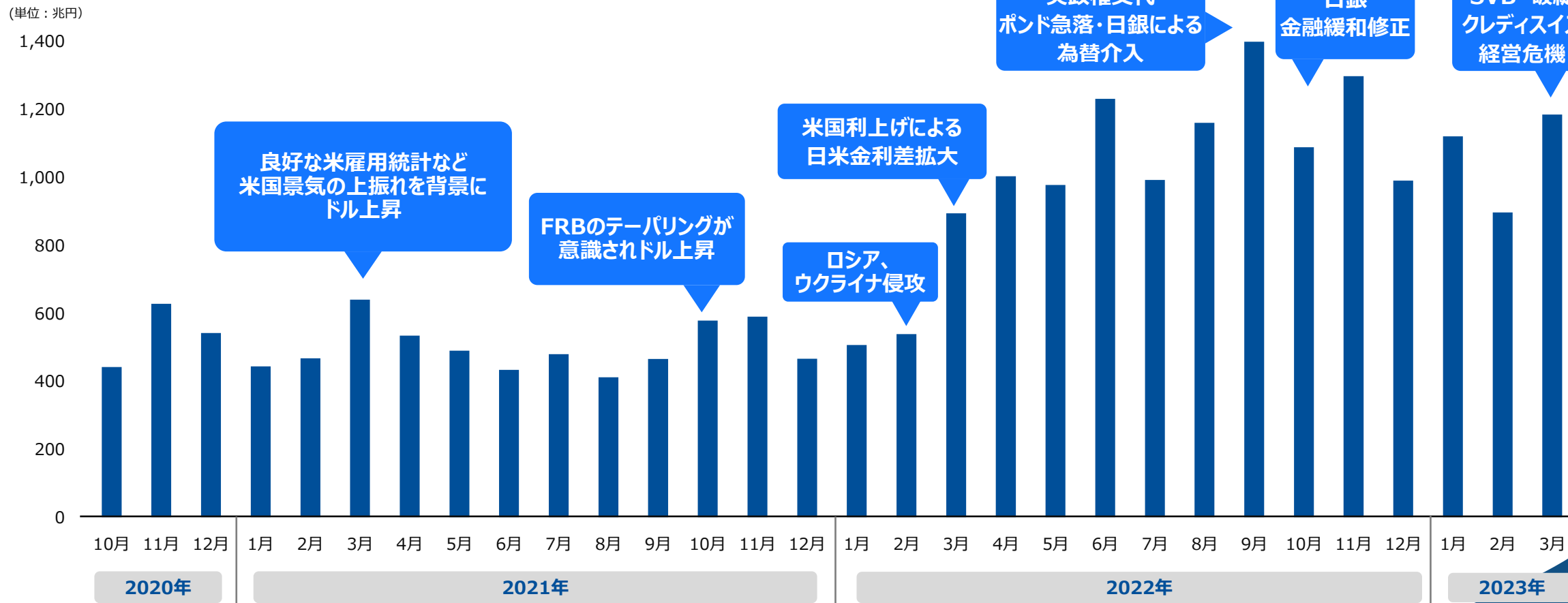
市況概況

第4四半期では、日銀の金融緩和継続と米国のCPI上振れに加え、日銀総裁に決定した植田氏の発言による値動き等がありました。3月に起きた米国でのシリコンバレー銀行の破綻やクレディスイス銀行の経営危機の影響により円高に振れました。

2023年3月期 市況概況②

引き続き市場環境は活況

店頭FX取引額の状況（国内）



出典：一般 社団法人金融先物取引業協会

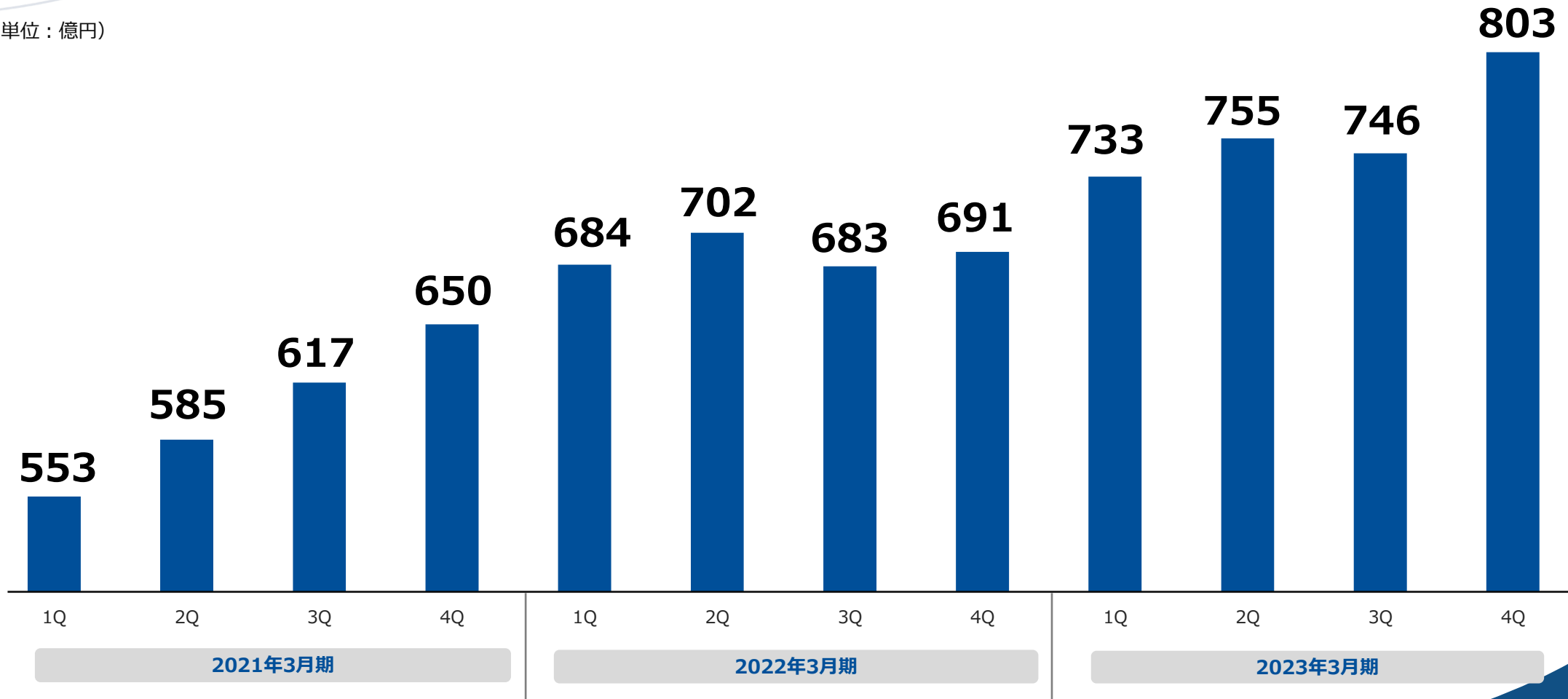
四半期ごとの預り資産推移

金融を、もっと面白く。



預り資産は順調に積み上がり、3期前に比べ約250億円増加

(単位：億円)



四半期連結業績推移

金融を、もっと面白く。



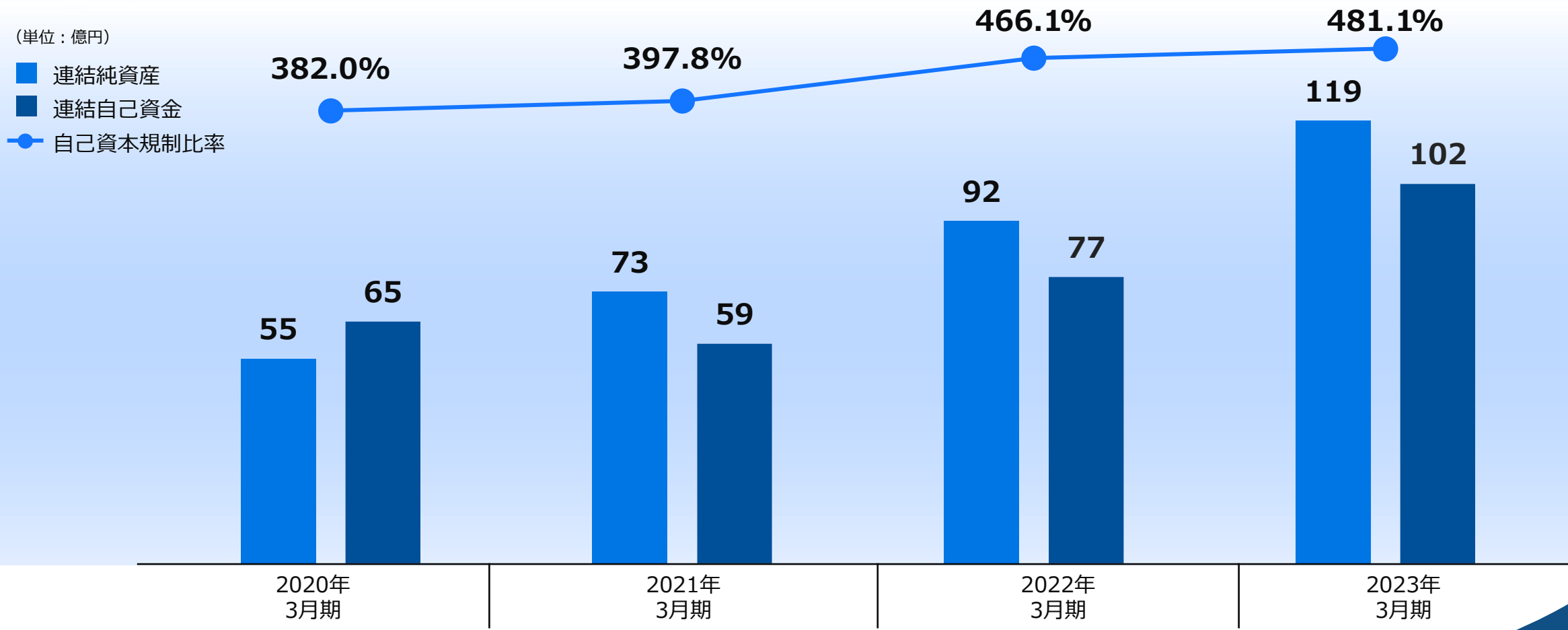
第4四半期は預り資産の増加による影響が大きく、過去最高の営業収益となった

(単位：百万円)	2022年3月期				2023年3月期			
	1Q (2021年4-6月)	2Q (2021年7-9月)	3Q (2021年10-12月)	4Q (2022年1-3月)	1Q (2022年4-6月)	2Q (2022年7-9月)	3Q (2022年10-12月)	4Q (2023年1-3月)
営業収益	1,553 (100%)	1,569 (100%)	1,893 (100%)	2,066 (100%)	2,397 (100%)	2,021 (100%)	2,317 (100%)	2,458 (100%)
純営業収益	1,457 (93.8%)	1,458 (92.9%)	1,753 (92.6%)	1,903 (92.1%)	2,229 (93.0%)	1,841 (91.1%)	2,141 (92.4%)	2,240 (91.1%)
営業利益	472 (30.4%)	449 (28.6%)	783 (41.4%)	666 (32.3%)	1,108 (46.2%)	676 (33.5%)	952 (41.1%)	1,004 (40.9%)
経常利益	469 (30.2%)	458 (29.2%)	774 (40.9%)	657 (31.8%)	1,102 (46.0%)	670 (33.2%)	957 (41.3%)	1,000 (40.7%)
四半期純利益	540 (34.8%)	425 (27.1%)	751 (39.7%)	471 (22.8%)	951 (39.7%)	540 (26.7%)	727 (31.4%)	998 (40.6%)

(注) 本資料のカッコ内の%は、営業収益に対する割合を表示しております。

連結純資産および連結自己資金並びに財務安全性の推移

引き続き事業規模の成長とともに純資産、自己資金も順調に増加 安全性維持



(注) 連結自己資金 = 連結現金預金 + 短期差入証拠金 - 有利子負債
(資金のうち顧客分別金を除いた当社グループに帰属する短期の自己資金)

金融を、もっと面白く。



中期経営計画の目標数値に関して

預り資産の修正について

金融を、もっと面白く。

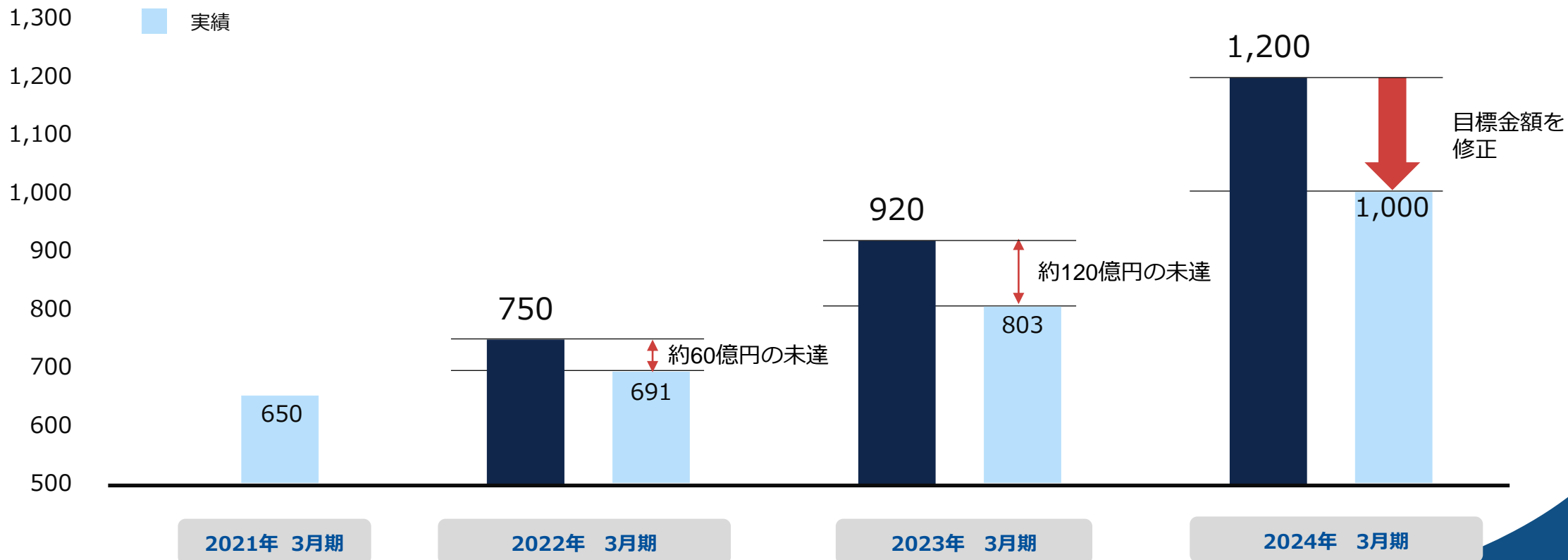


✓ 中期経営計画の最終年度である2024年3月期の目標金額を1,000億円に修正

目標預り資産と実績の推移

(単位：億円)

■ 目標
■ 実績



事業環境の変化と方針の切り替え

金融を、もっと面白く。



- ✓ 暗号資産CFD取引の新サービスの提供時期の遅延に加え、暗号資産の相場が崩壊
米国での暗号資産交換会社の破綻等でイメージが悪化し信用不安とともに取引量が低下
中期経営計画提出当初の想定とは事業環境が大きく変化した
- ✓ 環境の変化をチャンスととらえ、経営資源をFXにフォーカス
FXにおける預り資産残高は当初の想定を超えて推移
- ✓ その後のFX市場の活況をしっかりと捉え、2期連続の上方修正を達成
(2022年3月期および2023年3月期)

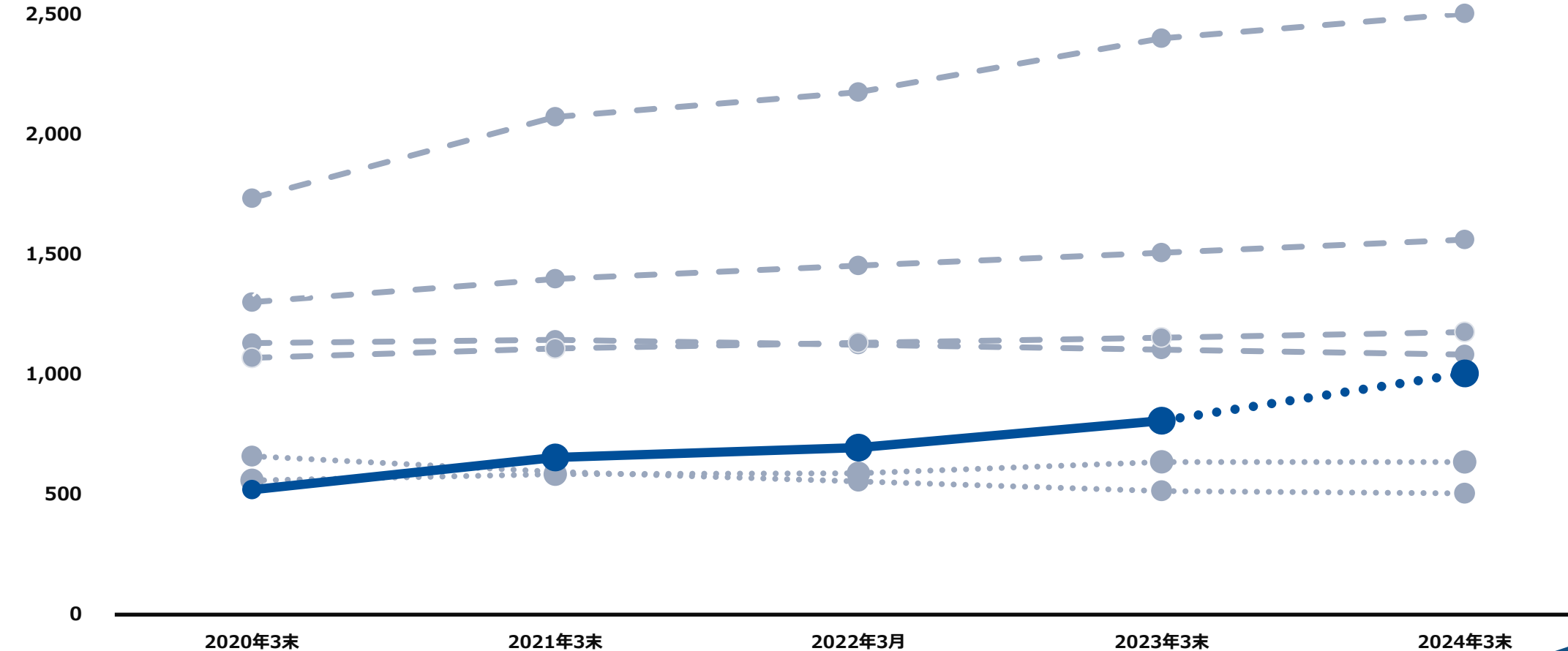
中期経営計画の目標金額について

金融を、もっと面白く。



- ✓ 収益性の高いFXにフォーカスし預り資産増加を計画
- ✓ 業界2位グループ下限である預り資産1,000億円を必達とする

(単位：億円)



金融を、もっと面白く。



2024年3月期決算 業績予想

2024年3月期 業績予想

金融を、もっと面白く。



引き続き預り資産を増加させていきながら、活況な相場環境が続くと見込み、営業収益は6期連続の増収を計画

営業利益・経常利益はともに4期連続の増益を見込む

当期純利益については、繰越欠損金の減少に伴う税負担率の上昇により、減益見込

(単位：百万円)	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (予想)	増減
営業収益	9,194 (100%)	10,100 (100%)	+ 905
営業利益	3,742 (40.7%)	4,000 (39.6%)	+ 257
経常利益	3,730 (40.6%)	4,000 (39.6%)	+ 269
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,217 (35.0%)	3,000 (29.7%)	▲ 217

金融を、もっと面白く。

Traders

業績予想達成に向けた2024年3月期の施策

さらなる成長に向けた今後の取り組み

金融を、もっと面白く。

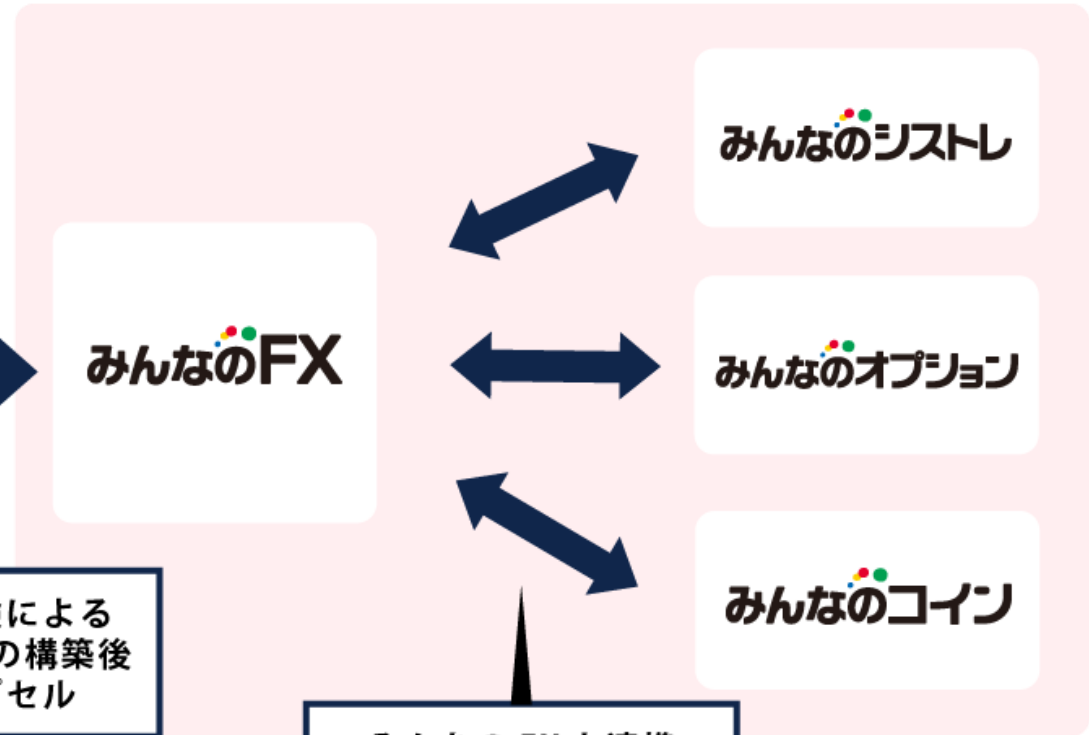


初心者



ターゲットを絞った
マーケティングを行い
LIGHT FX へ

経験者



顧客体験による
信頼関係の構築後
アップセル

みんなの FX と連携
他のサービスとも
組み合わせて利用可能

LIGHT FXの具体的な施策

金融を、もっと面白く。



- **業界最高水準のスプレッド・スワップを生かした戦略**
 - ✓ **LIGHT FXのリニューアルを行い、業界NO.1のスワップを訴求**
 - 高スワップ戦略の主軸サービスとなり中長期投資を目的とした新規顧客を獲得**

- **新規マーケティング施策を計画・遂行**
 - ✓ **Webブランディングに強い広告代理店とタッグを組み、ターゲット顧客層に訴求を強化**
 - ✓ **認知度向上に向けたクリエイティブの刷新を予定 新規のプロモーションに注力**

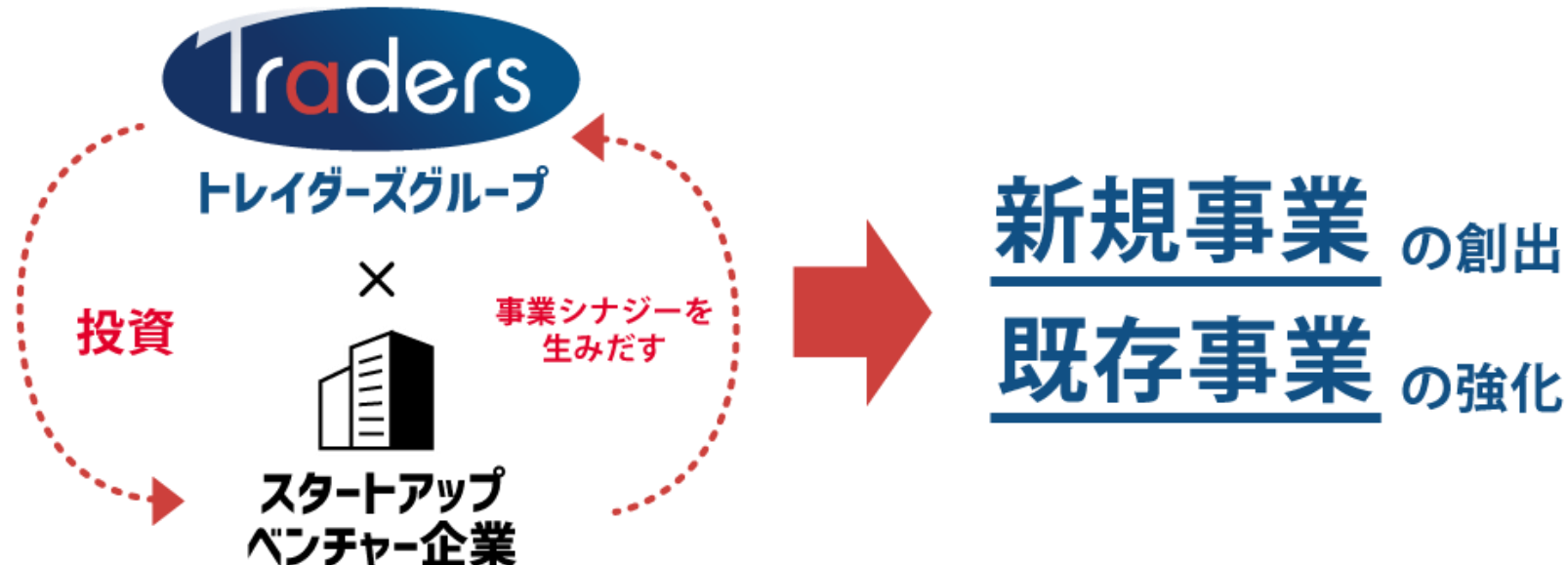
CVCファンド設立

金融を、もっと面白く。



□ 2023年4月19日に「 트레이ダーズFinTechファンド」を設立

- ✓ 出資額：10.1億円 運用期間：10年
- ✓ 高度な金融スキルを有するインベストメントLab株式会社とタッグ
- ✓ 革新的な技術・アイデアを持つスタートアップ（主にフィンテック領域）と協業
出資先企業の成長をサポート、事業シナジーを生み出し、新たなビジネスの柱へ



金融を、もっと面白く。



株主還元

配当方針の決定

金融を、もっと面白く。



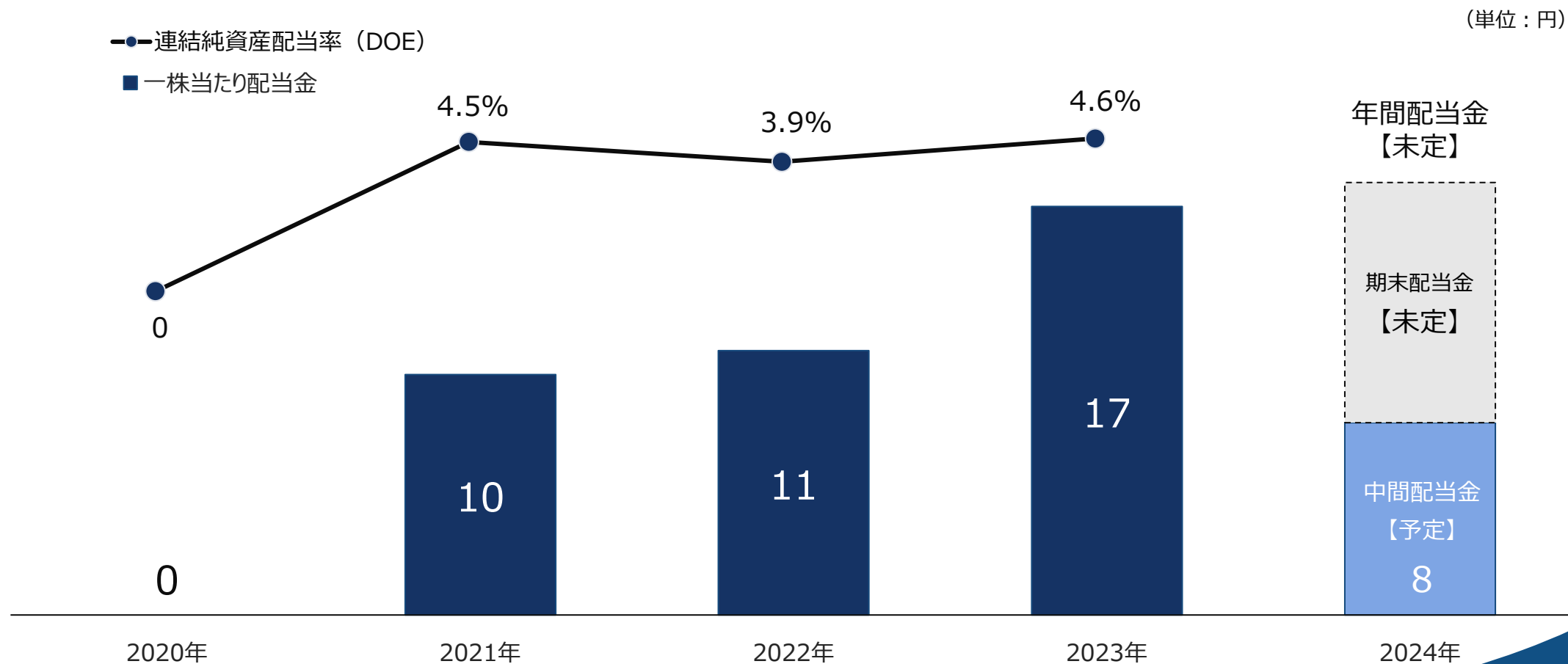
- 連結純資産配当率（DOE）4%を目安に年2回の安定的な配当を継続して行うことを基本方針に決定
 - ✓ 業績が市場環境の変動に左右されやすい弊社にとっては、毎期の業績に連動し、変動幅の大きい配当性向を目標とするよりも、連結純資産を配当金決定の計算根拠とするDOEを配当の目標と定めることでより中長期的に安定した配当を行うことが可能となると考え、方針を決定
- 2023年3月期は一株当たり**17円** 2024年3月期は**中間配当金8円**を予定 期末配当金については未定
 - ✓ 2024年3月期より中間配当の実施を決定 中間配当金は8円を予定 期末配当金に関しては現時点では未定ではあるが、業績等の状況を勘案し、年間配当総額DOE 4%を目途に決定

※DOE計算式

$$\begin{array}{l} \text{DOE} \\ \text{(連結純資産配当率)} \end{array} = \frac{\text{年間配当額}}{\text{連結純資産}} \times 100$$

配当実績および配当予定について

2024年3月期より中間配当を実施 中間配当金は一株当たり8円を予定 期末配当金は現時点で未定
年間の合計配当金額についてはDOE4%を目途に期末配当金額を決定予定



金融を、もっと面白く。



Appendix

恵比寿ガーデンプレイスへの本社移転が完了①

金融を、もっと面白く。



移転が完了し、4月24日より新オフィスにてグループ全社の営業が開始
カフェエリア等の共有スペースが多くなったためグループ会社間でのコミュニケーションが増加



富士山を望むオフィスからの眺望



DX推進によりWeb会議等が可能となった大会議室



カフェエリア



YouTube撮影スタジオ



FleGrowth執務エリア



簡易MTG用ブース

恵比寿ガーデンプレイスへの本社移転が完了②

金融を、もっと面白く。



ディーリングルームではメディア向けの取材を見込み、為替表示モニターを設置
カフェエリアでは大型プロジェクターを設置 ロイヤルカスタマーへ向けた金融セミナー等の開催が可能に



カフェエリア

プロジェクターを設置
金融リテラシーの向上に向け、
セミナー等での開催を予定



ディーリングルーム 世界時計

世界各国の主要都市の現地時間を表示
一目で世界中の時間がわかるように



ディーリングルーム モニター

各通貨ペアの価格を表示
カフェエリアからもガラス越しに見ることができ
メディア取材の対応も可能に

Sustainability Policy

トレイダーズグループの考えるサステナビリティ

これまで、わたしたちは様々なステークホルダー、すなわち株主、投資家、お客様、お取引先、社員、関係諸機関等と適切に協働し、もしくは支援を得ながら、企業として少しずつ成長の道を歩んでまいりました。当社グループは、上場会社として、また、様々な事業を営む企業体として、自己の利益だけを追求することなく、これからも、金融商品取引事業とシステム開発コンサルティング事業のそれぞれの活動そのものの中で、長期的に社会や環境に貢献しうるマテリアリティへの取り組みを進めてまいります。今後、当社グループの成長をけん引するために、ステークホルダーとの協働により、社会的価値と経済的価値を向上させ、または、創造する取り組みを推進することこそが、社会や環境面におけるサステナビリティを巡る諸課題に対する、わたしたちの義務と責任であり、使命であると考えています。

環境的な課題の解決のために

企業活動を通じて負荷をかける地球環境に対する、企業としての取り組み（環境負荷の低減）の実践と継続

ペーパーレス化の推進・森林認証用紙の使用【森林資源の保護】



当社グループでは、会議時のペーパーレス化（タブレット端末・ノートPC・共有モニターを用いた電子会議、インターネット会議の促進）、契約書の電子化によるペーパーレス化、業務作業の自動化ロボット対応化（RPAの導入による業務効率化）や、森林認証制度PEFC認証のコピー用紙、FSC®認証の名刺を使用することにより、森林資源の保護を通じた温室効果ガス削減（CO2削減）に貢献しています。

消費電力（使用量）の削減・抑制【省エネルギーの推進】



当社グループの主軸事業である金融商品取引事業は、顧客がインターネットを通じて取引を行うサービス形態であり、インターネット関連設備やシステム開発・保守運用のためのパソコン機器等、安定的なサービス提供やシステム稼働のために、電力を多く消費する事業構造となっています。消費電力の削減を通じた省エネルギー化を推進するため、オフィス内においても、積極的に電力消費（エネルギー使用量）の削減、省エネPC機器への順次リプレイスに取り組んでいます。

再生可能エネルギー由来電力の使用



これまで当社本社が入居していた住友東新橋ビル3号館における使用電力につきまして、2022年9月に再生可能エネルギー由来の電力に切り替えました。また今春本社を移転しました恵比寿ガーデンプレイスでは入居する全てのテナントが再生可能エネルギー由来の電力の提供を受けており、当社も再生可能エネルギー由来電力を使用しております。

グループ会社のサステナビリティの取り組みの詳細についてはこちら

トレーダーズ証券



FleGrowth



社会的な課題の解決のために

日本ユニセフ協会への寄付



当社グループ各社は本年2月にトルコ共和国、シリア・アラブ共和国での地震により被災された皆様への支援として、ユニセフ（国連児童基金）へ総額500万円の寄付をいたしました。ユニセフは被災した家族や子どもたちが切実に必要としている支援、特に命を守るための安全な水と衛生的な環境を提供することを最優先としており、当社グループは被災地の一日も早い復旧を願い、ユニセフを通じて救援物資を必要としている被災者の方々を支援いたします。



こどものみらい古本募金



内閣府等が主導する「子供の未来応援国民運動」の一環である「こどものみらい古本募金」に日本証券業協会が主導して証券業界全体で取り組んでいる中、子どもの貧困をなくすとの趣旨に賛同し本活動へ参加しております。寄付金は子ども食堂や学習支援を行うNPOへの支援に活用されます。

金融リテラシー向上への取り組み



若年層・学生・女性等幅広い層の金融リテラシーの向上を目指した取り組みとして、「きんゆう女子。」主催の勉強会に 트레이ダーズ証券の為替ディーラーを講師として派遣するなどの取り組みを進めており、また、書籍出版・寄稿・SNSによる情報発信等、多様な活動も実施しています。

コーポレート・ガバナンスの高度化とより一層の充実に向けた取り組み

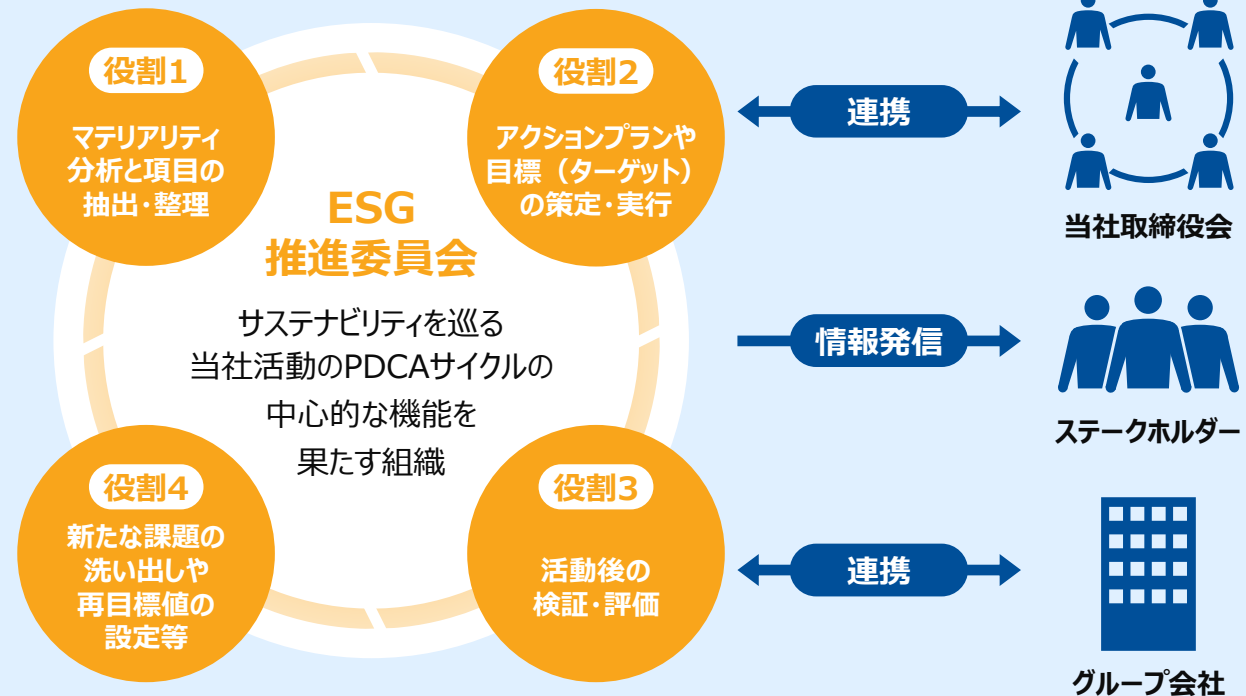
当社は、グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指して、実効性あるコーポレート・ガバナンスのあり方を不断に追求し、構築・強化を進めています。当社コーポレートガバナンスの詳細、コーポレートガバナンスコードへの取り組み内容についてはWebサイトでご覧いただけます。



当社グループの マテリアリティ推進体制

当社グループでは、ESG推進委員会に各事業会社の代表取締役も含めて、グループ全体でサステナビリティ経営を推進（関連する事業や取り組みを実践）しています。

今後も事業活動を通じた社会的課題の解決や新たな価値創造を目標に、社会情勢や事業環境等を見極めながら、マテリアリティに沿った取り組み（評価を含む）をグループ全社で（部門横断的に）進めてまいります。



コーポレート・ガバナンスの高度化とより一層の充実に向けた取り組み

当社における東証「コーポレートガバナンス・コード」全原則のComply状況

① 2021年3月末時点（JASDAQ市場）

② 2021年12月時点（JASDAQ市場）

③ 2022年6月末現在※（スタンダード市場）

※直近のCG報告書提出時点



（スタンダード市場区分選択前）

スタンダード市場移行のため、CGコード全面適用に向けた取り組みの本格化！

Complyに向けて当社が改善してきた主な事項！

ポイント1！

取締役会の実効性の強化や機能の拡充

ポイント2！

社外取締役や監査役の果たすべき役割・責務のより一層強化による経営プロセスの透明化

ポイント3！

サステナビリティ方針の確立とグループ全体でのESG活動の推進！

市場区分再編による移行前後で、Comply項目が大幅に増加！

（2022年4月：スタンダード市場に移行完了）

スタンダード市場移行後も、継続して、Comply項目への改善強化！

Complyに向けて当社が改善してきた主な事項！

ポイント1！

取締役会の構成に必要なスキルマトリックスの選定と公表

ポイント2！

取締役会の機能発揮のため、実効性評価の実施と結果の開示

ポイント3！

役員の報酬等の決定方針の透明化と株主目線に即した報酬体系の導入

今後も、引き続きComply項目を増やすべく、グループ内部管理体制の強化とコーポレートガバナンスの充実化に取り組んでまいります！

本資料に関する注意事項

当資料に掲載されている事業戦略や目標数値、見通し等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断した内容であり、実際の業績等の結果は、今後の経済情勢や事業環境、為替市場の動向等、様々な不確定要素その他リスク等に起因して、記述とは大きく異なる可能性があります。

また、マーケットシェアや市場規模等の数値について一部当社の推計値が含まれており、調査手法等によって異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に関するお問合せ

トレーダーズホールディングス株式会社
ir@tradershd.co.jp (IR担当)



金融を、もっと面白く。